

# 超党派女性議員が連帯 大阪市廃止・解体反対の声を

集会開く

大阪市廃止・解体反対の声を上げようと、超党派の女性議員が連帯した『大阪市のままでも変われる☆女性集会』が9日、大阪市で開かれ、500人が参加しました。主催は同実行委員会。自民、

公明、共産の女性市議とOSAKAみらい（民主系）の前市議、計7人が出席しました。4会派の代表があい

さつし、会場から『反対』を1人100票広げて勝とう』と激励が飛ぶなど、9割が女性の会場いっぱい参加者は「大阪市をなくしたらあかん」の思いを一つにしました。

自民党の北野妙子市議が、住民投票で問われる大阪市廃止・解体の内容を解説。「いま誤った判断をすれば、そのツケは子や孫が払

わされます。『反対』が大阪市の未来へのパスポートです」と語りました。

公明党の島田まり市議は「協定書の中身は本当にひどい。大阪市解体に断固反対です」と述べ、民主党の山本修子前市議は「橋下さんの泣き落としにだまされたらあかんよ、と周りに広げてください」と訴えました。

日本共産党から山中智子、寺戸月美両市議が参加。山中氏は「人情あふれる庶民のまち大阪が、東京のまねをして巨大開発に走る必要はありません。住民投票を否決し、『庶民と中小企業が主人公』の大阪のまちづくりを始めましょう」と呼びかけました。

友人2人と参加した女性（45）＝平野区、労組職員＝は「生まれ育った大阪市をなくしたくない。会派を超えて思いは一つだと感じられてよかった」と話しました。



4会派共同のシンボルマークを掲げ大阪市廃止・解体に「ノー」の意思を示す参加者＝9日、大阪市